

校長つうしん No.26

Sapporo
Odori

2017.10.17

鈴木 恵一



10月5日、秋季入学式が挙行され、新たな仲間を加え後期が動き出しました。始業式・終業式では、失敗を成功へ繋げるための努力をしようという話をしました。後期へ向けて気持ちを新たに、自分らしいあり方、生き方を探究し充実した学校生活を送りものです。ゆっくりでもいいから一歩ずつしっかりと！

仕事は楽しいことばかりじゃない

◆理想と現実のギャップに揺れ動く

本校は「キャリア教育」に力を入れています。

単に「働く」という狭い意味の職業教育だけではなく、生涯しょうがいにわたって人としてどうあるべきかということ、仕事を通じて「自分磨き」をし続けることを、在学中にしっかりと考え、あなたなりの目標を持ってもらいたいと考えています。

人と社会との関わりを考えたとき、仕事を通じて成長すること、そして何らかの形で社会に貢献こうけんすることが求められます。それを支えるためのものの見方や考え方を学ぶのがキャリア教育です。

現在、3・4年次生は進路（就職、進学）活動をしています。ずっとやってみたいと思っていた仕事や専門的な勉強、興味のある業界など、“あこがれの仕事”を目指そうとしている人も多いことでしょう。



8月に同窓会が開催された折、多くの卒業生と話しました。就職して夢がなかったと喜んだのもつかの間、「イメージしていた仕事と違った」「思い描いていた職場環境ではなかった」「たんたん淡々と仕事だけしていればいいわけじゃない」「職場の人間関係の調整が難しい」「周囲のレベルについていけない」……など、みんな何かしら悩みを抱えています。挫折させつし転職を考えている人がいるのも現実です。

どれもこれも、大なり小なり誰もがぶつかる壁だともいえます。それをどう乗り越えるかは、自分の心の処しよし方次第です。会社に残って頑張るか、心機一転、違う道へ進んでチャレンジしなおすのか、それは自分が決めることです。「誰かに言われたから……」ではなく、最後は自分の心が決めることです。でも、すぐに辞めてしまう前にもう少し頑張れないかな……と、そんな言葉を卒業生に投げかけたりもしました。

モチベーションを高め維持するために、^{あこが}憧れに向かって突き進むことは決して悪いことではありません。しかし、高校在学中はどうしてもイメージが先走ってしまいがちです。業界の特徴や業績、社風、実際の仕事内容など、どれだけ情報を集められるかは重要なポイントです。求人票の見方、読み方のポイントも教わるでしょう。労働時間のこと、給料のこと、各種社会保障のことなど、トータルで考えなければなりません。また就職すれば、どんな職種も最後は結果を出さなければなりません。

◆知識を知恵にするために

後期始業式で以下のような話をしましたね。

商業科目の「簿記」ではお金の出入りを記帳する知識・技術を学びます。

物事には必ず「原因」と「結果」があり、それを一定のルールに従って記録するのが簿記です。例えば自分のふところに現金が入った理由(原因)は？と考えたとき、商品やサービスを売ったという結果があります。逆に商品を得たいなら、お金を払うという出入りがあります。あるいは、労働者として労働を提供して給料を得ることも同じです。

経済学に「^{たいか}対価」「^{とうかこうかん}等価交換」という言葉があります。対等な価値あるモノ(商品)、コト(サービス)、ヒト(労働力)を交換し合い、それが社会のなかで^{じゆんかん}循環しているのが経済です。何かを得るためには、それに見合ったものを差し出すことで成り立っているわけです。

私は、あなたに「この考えを人生にあてはめてごらん」と言いました。知識や技術を得たい、幸せになりたい、信頼を得たい、愛がほしい……そう思うなら自ら何を差し出すの？ 勉強して知識を得たいと思うなら、あなたは何をしなければならないの？ と。



あなたが出すべきものは、時として努力や勤勉と表現され、また時として誠実、正義、責任、義務、親切、優しさ、思いやり、愛情……という言葉で表現されます。

仕事をするとか、何かを成し遂げるということは、楽しいことばかりではありません。努力が必要です。^{がまん}我慢も必要です。いろいろな人とのコミュニケーションで気配りも必要です。人間関係の調整に苦勞することもあります。面倒なこと、厄介なこと、さまざまな責任が伴うから、それをお金(給料)としてもらっているのが仕事

です。もちろん、楽しく充実した仕事ができるようになることが理想です。お金が伴わないボランティアや社会貢献、他人に対する親切、人助けも、それに見合った何かを自ら出さなければなりません。

自己の内面に^{そな}備わっている資質を外へ向かって有効に使うとか、放出する、提供するという行動は、「そのときになったらできるさ」「やる時はやるよ」と思う人は多いものです。しかし、実際の場面でそう簡単ではなかったと苦い思いをすることも案外多いものです。やはり経験が大切です。そして、私が何度もしつこく言っている“失敗体験”の積み重ねです。数知れない失敗体験の先に成功があるのです。

頭の中で知識として理解しているだけでは、実践で本領を発揮することはできません。体験には、知識を知恵に換えていく力があります。面倒だけど、きついけど、体験することに心を差し向ければ、何にも代え難い^{がた}宝が得られるのです。